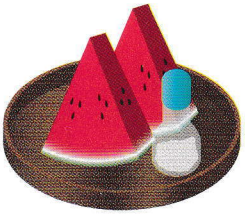
病気になって1か月半、主人といろいろ考えた結果シルバー人材センターでした。シルバー年代で病みあがり、普通ではどこも雇ってくれません。しかし、シルバー人材センターは「いいですよ。とりあえず会員申込書を出しておいてください。」といわれ、「ダメだろうな」と思いながら書類を提出しました。

しばらくすると、シルバー人材センターから連絡があり、私にでもできる仕事が見つかり、とてもうれしい気持ちになりました。週2日程度の仕事ですが、私も何かの役に立っているのだと思うと「さあ今日も頑張ろう」と楽しく続けられました。

今では、同年代で病院通いなどの共通点のある仲間達と楽しく仕事に励んでいます。しかし、いつも無理をしないで！の声掛けに無理をしています。

なぜ、今でもシルバー人材センターへ行こうと思ったのかわかりません。

人生終盤の道を主人と気の合う仲間たちとゆっくりと歩いています。



楽しみのある生活

新宮事業所　井戸正義

シルバー人材センターで働かせていただくことになって早や7年目を迎えています。

今では、分不相応な副理事長や安全委員などを任じられて四苦八苦していますが、それでも会員の皆様のご協力やご支援に支えられて、何とか勤めさせていただいていることを感謝しています。

私は、42年間勤め定年退職した後、第二の職場で3年間勤め、通算45年間という長期間、自分なりによく勤めたものだ、今後は「悠々自適の人生を」と思い、放棄して竹藪になっていた畑を開墾するため半年間、ツルハシ、スコップ、チェンブロックを駆使して竹の根を掘り起こし、元の畑に戻し達成感を感じたものの、その後ふと自分は、誰とも話さず、ラジオのみを友としている状態で、残り少ない人生を過ごして良いものかという、孤独感に襲われました。

63歳からハローワーク通いをし、仕事を探していた時、近所の人から、シルバー人材センターに入ることを勧められたのです。

私は特技というものはありませんでしたが、農業を少しやっていたため、「草刈なら自信がある」と高をくくっていたのですが、いざ現場へ出ると、草刈機の排気量も様々あり、刈刃に至っては、私が知っていたチップソー以外にナイロン紐・二枚刃・三枚刃・鋸刃などがあり、ナイロン紐の中でも、太さ、形状、材質など様々で、草刈の状態によって使い分けをする、孟宗竹や15センチぐらいの雑木すら草刈機で伐採できるというこ